

灸道湖



今号の表紙

水燈路

Maybe	2
「認定看護師コーナー・診療看護師について」 ..	2
アルツハイマー病の新しい治療薬と 当院の治療体制について	3
「ゆめ水族園に参加して」	3
調剤機器の変遷について（散薬分包機編）	5

似顔絵セラピー	6
入院患者さんへの似顔絵セラピーを開催しました	6
新人看護師集団似顔絵セラピーを受けて	7
新人看護師集団似顔絵セラピーに参加して	7
外来診療表	8

Maybe

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

2週間以上続く咳、それは結核かもしれません。
これはどこかで聞いたことがあるかもしれません。
「昔タバコを吸ってました。そういえばここ1、2年で息切れするようになりました。」
それは慢性閉塞性肺疾患(COPD)かもしれません。
会議中に居眠りばかりしている。
それは睡眠時無呼吸症候群かもしれません。

どこかで聞いたことがないかもしれないけれど、
色のついた痰がよく出る。それは気管支拡張症かもしれません。
そんなことがある？と思うかもしれないけれど、
大笑いしたときに咳が出る。それは気管支喘息かもしれません。

そんな「かもしれない」を投げかけることがはじめての第一歩です。

とてもうまくいっている。
誰かに助けられているのかもしれません。
何か物事がうまくいかない。
あなたが良くないのかもしれません。
自分がいないと回らない。
いなくても回るかもしれません。
あれが良くない。
あなたがそう思ってるだけかもしれません。

順境の時は逆境かもしれないと考えることもまた大事

なのかもしれません。
逆に逆境だと思ってる時に実は順境なのかもしれません。

詩人の吉野弘は「樹木」という詩の冒頭で、
「幹が最初に枝分かれするときの決断、梢の端々に無数の芽が兆すときの微熱。それが痛苦なのか歓喜なのか人は知らない。樹の目標は何か、完成とは何かもちろん、人は知りもしない。」と詠んでいます。

最初の枝別れが間違っていれば、
その先の芽は芽吹かないかもしれません。
そんな風に思ったほうがいいのかもしれません。
その決断は思い込みなのかもしれません。
やったほうがいいよね。やらないほうが良いのかもしれません。

意外とかもしれないって思いながら、
いろいろやる方がいいかもしれません。
教育も、自信を持ちながら迷いながら、がいいのかも
かもしれません。
芽吹きをそうっと見守って、大輪の花を待つのがいい
かもしれません。

もしあなたが、何かに「かもしれない」と感じたのなら、
何かに向かって踏み出す第一歩なのかもしれません。
2025年秋。

「認定看護師コーナー・診療看護師について」

診療看護師 中村 光太

こんにちは、私は統括診療部に所属する診療看護師の中村光太と申します。
診療看護師とは「医師と連携を計りながら患者さんに必要とされる医療的介入を許可された一定の範囲内で自律的に行うことができる看護師」のことです。アメリカではナースプラクティショナー：Nurse Practitioner（以下NP）という呼称で1960年代より導入されています。

当院では医師と協働しながら入院患者のケアに携わる他、動脈血採血や胃瘻チューブの交換、気管切開チューブの交換などかつては医師が行っていた医療行為の一部を代行しています。これらの医療行為は「特定医行為」として厚生労働省から指定されており、定められた研修機関で研修を履修した看護師が行います。当院において特定行為は診療看護師の他に「特定看護師」も実施しています。

日本は2025年に国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、かつて人類が経験したことのない『超高齢社会』を迎えました。特定行為や医行為を医師と連携し分業を行うことで、地域の患者さんに対して看護ならではの視点から、安全安心でタイムリーな医療を提供することを目標として頑張ります。どうか宜しくお願いします。

アルツハイマー病の新しい治療薬と 当院の治療体制について

外来 看護師長 永瀬 美沙

アルツハイマー病の新しい治療薬として「レカネマブ（レケンビ®）」や「ドナネマブ（ケサンラ®）」があります。いずれも「MCI」とよばれる軽度認知障害および軽症の認知症の患者さんに限定された治療薬です。もの忘れなどの症状の進行をゆるやかにする効果が期待されます。県内の治療実施施設は2施設のみであり、当院はその一つであります。2024年7月から複数の患者さんが治療に通院されています。これらの治療の導入には診断から投与管理まで多段階の流れと看護支援が必要です。診断には複数の検査が必要であり、治療にはアミロイドPETによるアルツハイマー病の診断が必要となります。検査の結果で治療適応かどうかを医師が決定します。同時に薬剤師や看護師、専門職が連携し、患者さんやご家族に対して薬の効果や副作用、治療の流れ、費用について丁寧に説明し、十分な理解と同意を得て治療を開始します。

治療開始後は、レケンビ®は2週間毎、ケサンラ®は4週間毎に点滴治療のため通院が必要です。また治療には家族または介護者の付き添いをお願いしています。看護師は投与前にバイタルサインや体調変化を確認し、医師へ報告します。投与中はアレルギー反応や副作用症状の早期発見に注意し観察を行います。治療開始後は定期的なMRI検査が行われるため、検査スケジュールの管理や説明も行っています。レケンビ®、ケサンラ®の注意が必要な副作用として、アミロイド関連画像異常（ARIA）、脳出血等があります。ARIAを早期発見し、適切な対応を行うために、定期的なMRI検査を行うと共に、頭痛・吐き気・めまい等の症状出現や普段と様子が異なる場合には速やかに連絡していただくよう指導しています。

認知症の患者さんは、自身の病気や治療に対して不安を抱えています。私たち看護師は単に医療行為を行うだけでなく、患者さんの話を丁寧に聴き不安な気持ちに寄り添う精神的なサポートも行っています。また治療にはご家族の協力が不可欠です。ご家族に対しても通院や介護の負担、病気の進行に対する悩みについて相談に乗り、患者さんにご家族が安心して治療を継続することができるよう支援してまいります。

「ゆめ水族園に参加して」

保育士 上岡 絵美

7月30日(水)、療育訓練室にてセイコーエプソン(株)による「ゆめ水族園」を開催しました。ゆめ水族園は壁や天井、揺れるスクリーンにクラゲやペンギン、熱帯魚などの映像を映し出し、まるで海の中にいるような幻想的な空間を体感できるプログラムです。企業の社会貢献活動として、全国の病院や特別支援学校などで実施されています。

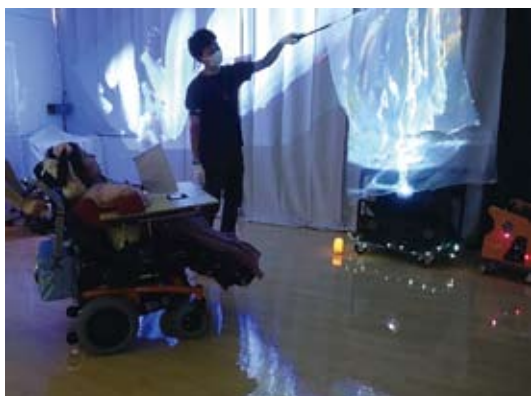
当日までの準備期間、療育活動の中で患者さんと紙粘土で海の生き物を作ったり、シャボン玉アートで大きな看板を作ったりして、その日が来るのをワクワクしながら待ちました。あと1週間…あと3日…前日…

そしていよいよ開催日当日！メイン会場の入口のカーテンをくぐると、目の前に柔らかな光と大迫力の映像が広がり、耳をすませると生き物の鳴き声や波の音が聴こえてきました。会場内はそれぞれエリアに分かれていて、心地よい感覚刺激（光、音、色、動き、触れる）を全身で感じることができました。参加された方々の中には、金魚に触れようと手を伸ばす方、目を見開いて映像を眺める方、「わぁー！」と声を出される方などおられ、患者さんの様々な反応を見ることができました。また、病室から移動することが難しい患者さんには、映像を映し出す移動型プロジェクションカーが訪問し、幻想的な海中の世界を体験していただきました。カーテンや壁に映っ

たペンギンやイワシの群れを、瞬きを忘れるくらい見つめる患者さんと、優しく声をかけるご家族の姿がとても印象的でした。

当日は病棟の患者さんやそのご家族など総勢128名の方にお越しいただきました。ゆめ水族園は様々な刺激を通して、患者さんやご家族、スタッフ同士で会話が生まれ、交流が深まるコミュニケーションの場になったと思います。

イベントが終わった直後は「楽しかったね」「夢のような時間だったね」とゆめ水族園の余韻にしばらく浸っていました。今回の体験を患者さんと振り返る中で、「今度は本物の魚が見てみたいね」、「今度は宇宙バージョンも見てみたいな」といった声もありました。今回の体験をもとに、患者さんの“こころ”と“からだ”が踊るような次の活動に繋がっていきたいと思っています。



調剤機器の変遷について(散薬分包機編)

薬剤部長 谷口 仁司

お薬が処方されてから患者さんのお手元へ届くまでには、様々な調剤機器が活躍しており、我々の薬剤業務を安全確実にを行うためには、今や欠くことのできない存在となっています。

今回は、その中でも当院で処方頻度の高い粉薬の調剤に関する機器の進化について、お話しさせていただきたいと思います。

まず散薬の機器が開発される以前は、薬剤師が手作業で薬包紙を折り、1包ずつまとめていました。このような煩雑な手作業を解消するため、一連の作業を機械化する開発が進み、1960年代に分包機として世に出されたことから歴史が始まります。



薬包紙を手作業で実施

1960年代に開発された1号機は、薬さじで1包ずつ散剤を入れた袋に封をするだけの単純なものでした。

1970年代に登場した分包機には、回数分の散剤を仕切られたマスに投入すれば分包できるマス切り方式が登場し、更に1980年代に入ると包数分の散剤をまとめて入れると、1包ずつに分ける全自動分割分包機がデビューし、この全自動分割分包機が主流となって現在においても形を変えながら活躍しています。



時代とともに進化してきた分包機

この時期から分包機の変遷は明確な転換期を迎えます。分包機のルーツは調剤業務における利便性の追求に端を発していますが、1980年代後半からは徐々に患者さんに対して、「いかに安心・安全の処方を行えるか」という視点から開発が進められるようになりました。

技術の進歩に伴い、分包紙に患者名や薬品名、用法用量等が印字できるようになり、また絵文字などで用法用量を印字する機種も出て、更なる発展を遂げています。この分包紙への印字は、取り違い防止や服用量厳守など医療安全の向上に寄与しています。

調剤機器メーカーが、薬剤師の様々なニーズに応えることで、分包機は今日まで進化してきました。

現在では更なる進化を遂げ、薬剤の選択・秤量・分包まですべてを全自動化した夢の全自動秤量散薬分包機ロボットが登場し、薬剤師が専門性を活かして、患者さん一人ひとりに向き合う時間の創出に貢献してくれています。これからも調剤機器の進化発展は、薬剤師を縁の下の力持ちとして支え続けていくことでしょう。



最新の分包機

似顔絵セラピー

8月22日(金)、長期療養中の入院患者様並びに新採用職員を対象に「似顔絵セラピー」を開催しました。当日は、患者さんへの似顔絵セラピー実施や、新人看護師同士による似顔絵作成などが温かい空気の中で行われました。

村岡ケンイチ氏 の紹介

医療とアートの学校 校長
似顔絵セラピー代表
アーティスト

(以下、医療とアートの学校HPより引用)



1982年広島県出身。東京都在住。2004年名古屋芸術大学イラストレーション科を卒業後、上京。日米韓の三か国で行われた似顔絵田際大会・白黒部門5連続優勝。2006年に県立広島病院にて「似顔絵セラピー」を発表し、似顔絵セラピストとして医療施設・介護施設を中心に似顔絵を通して「心のケア」を提供する活動を開始する。現在は、病院内の壁画を描くホスピタルアーティストとし大学病院等でアート空間プロデュースや、全国の病院で似顔絵セラピーの活動や講演会を開催する。

似顔絵セラピーの活動紹介

～患者さんの人生に寄り添うアート～

似顔絵セラピーは、ただ似顔絵を描くのではなく、患者さんの人生・記憶・思い出に深く寄り添う 傾聴型の心のケアです。患者さんと1時間近くじっくり対話をしながら、現在・過去・未来の話を聞き、その方の歩んできた人生や働いてきた場所、好きだった風景、趣味、忘れられない人や出来事それらを似顔絵の中に物語として描き込み、患者さんにお渡しします。

完成した絵は、本人だけでなく、家族や医療スタッフ、入院仲間との会話のきっかけとなり、患者さんの「人となり」が病院内で共有されていく温かい連鎖が生まれます。

入院患者さんへの似顔絵セラピーを開催しました。

1階病棟 看護師長 田中 舞

村岡ケンイチ先生による『似顔絵セラピー』に各病棟より1名ずつ計5名の患者さんに参加していただきました。

1階病棟の患者さんは、セラピストの先生が訪問されるまで「どんなかんじかな」とワクワクとドキドキの気持ちで待ってられました。セラピー終了後に出来上がった絵を見せていただくと、「嬉しいです。今までの話を聞いてくださり心が和らぎました。」と患者さんが笑顔いっぱい喜んでおられ、とても印象的でした。好きなアイドルやお花の絵が似顔絵の周りに描かれており、一つ一つ説明してくださいました。そ

の後もお部屋に飾っておられ似顔絵を見るたびに会話が弾みました。喜んでおられる患者さんを見て、私たちスタッフも暖かい気持ちになりました。

これからも患者さんの大切にされていることや楽しいと感じておられることに気持ちを寄せながら看護を提供していきたいです。



新人看護師集団似顔絵セラピーを受けて

4階西病棟 看護師 三島 百葉

私は美術が苦手で、特に似顔絵を描くことが一番難しいと感じていました。輪郭や目の描き方、顔のパーツの配置や大きさ、特徴をとらえることは、学生時代から苦手意識がありました。

今回の『似顔絵セラピー』体験では、描く前にどのように進めればよいのか、線の使い方や特徴のとらえ方などを村岡ケンイチ先生に丁寧に教えていただきました。パーツごとに大きさや位置を観察することで特徴を表現できることを知り、さらに似顔絵だけでなくその人の背景に好きなものを描くとより良いことも学びました。

実際に新人看護師同士でペアになって描いてみると、普段はマスクで隠れていた顔を初めて観察する機会となり、細かく顔の特徴を見ながら描くことができました。途中でアドバイスをいただき、今までで一番上手に描けたと思います。また、似顔絵を描きながらお互いに好きなものを語り合い、共通の趣味で盛り上がるなど、新たな交流や気づきの場にもなりました。似顔絵を通して、その人の顔のパーツの良いところや特徴を見つけることができただけでなく、会話を重ねることで人柄や強みを知るきっかけにもなったと感じます。看護においても、患者さんをしっかり観察することは状態把握だけでなく、その人の強みや良い面を見いだすことにつながると考えます。こうした視点を持つことで、看護師さんはより患者さんに寄り添った関わりができるのではないかと思います。



新人看護師集団似顔絵セラピーに参加して

教育担当 看護師長 岩田 珠里

8月22日(金)、村岡ケンイチ先生による『似顔絵セラピー』に教育担当看護師長として参加しました。新人看護師がお互いに似顔絵を描き合う場面では、最初は恥ずかしさや緊張がありましたが、先生にご指導をいただきながら実際に取り組んでみると、

次第に相手の表情や特徴を捉えようと真剣になり、書き終えた後には自然と笑顔や温かな言葉が飛び交っていました。絵の上手下手は関係なく、相手をよく観察し良いところを見つけて表現するプロセスは、相手への関心や思いやりを自然と育む効果があると実感しました。また、似顔絵を受け取った時の新人看護師の嬉し

そうな表情を見て、お互いを尊重し合う関係性が生まれており、今後の職場での人間関係づくりにも必ず繋がると確信しました。

自部署においても患者さんやスタッフを「よく見て観察する」「良いところを伝える」という姿勢は、看護の質を高め、チームワークを強める力になると思います。この体験を通して、今後も新人看護師が安心して成長できるように、温かく見守り支援していきたいです。



外 来 診 療 表

お気軽にご相談下さい

令和7年10月1日現在

診療科		日	月	火	水	木	金	専 門 領 域	
呼吸器内科		岩 本(初)	坪 内(初)	木 村(初)	門 脇(初)	池 田(初)		【呼吸器内科】 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 岩本 信一 坪内 佑介	呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		坪 内	小 林	岩 本			木 村		
			門 脇	池 田			小 林		
呼吸器外科		目 次			目 次		目 次		
脳神経内科 (予約優先)		中 島 (完全予約制)	古 和	深 田	足 立	(交替制)		【呼吸器外科】 目次 裕之	呼吸器外科・一般外科
		渡 辺	下 山		中 野 細 田				
循環器内科							生 馬		
消化器内科		法 正							
小児科	発 達 専門外来	久保田 (初診) (午後のみ) (予約制)	久保田 (午前のみ) (予約制)			久保田 (午前のみ) 前 垣 (第2木曜午前のみ) (予約制)		中島 健二 古和 久典 足立 芳樹 渡辺 保裕 下山 良二 深田 育代 細田 義人 中野 俊也	【名誉院長】脳神経内科 (完全予約制) 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科
	予防接種		(予約制)						
麻酔科	腰痛外来				西 村 (予約制)			【循環器内科】 生馬 勲	循環器一般
特 殊	睡眠時無呼吸外来					呼吸器内科 担当医(予約制)		【小児科】 久保田智香 前垣 義弘	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	息切れ 外来		池 田 (予約制)					【麻酔科】 西村友紀子	麻酔科領域
	喘息 アレルギー外来						池 田 (予約制)	【消化器内科】 法正 恵子	消化器内科領域
咳嗽外来						池 田 (予約制)			
外 来	禁煙外来					呼吸器内科 担当医(予約制)			
	アスベスト 外来		(予約制)	(予約制)	(予約制)				
来	もの忘れ外来				深 田 (予約制)				
	ボツリヌス 療法外来	(予約制)							
その他	セカンド オピニオン外来	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)		

診療時間 8:30~17:15

受付時間 8:30~11:30

自動再来受付 8:00~11:30

独立行政法人
国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター

〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号
電話 (0852) 21-6131(代)
地域医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
地域医療連携室 F A X (0852) 24-7661

Matsue Medical Center

特 殊 外 来	睡眠時無呼吸外来	診 療 日：毎週木曜日 14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診 療 日：毎週火曜日 13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診 療 日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診 療 日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：3週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診 療 日：毎週木曜日 9：00～9：30（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診 療 日：毎週火・水・木曜日 8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	もの忘れ外来	診 療 日：毎週水曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	ボツリヌス療法外来	診 療 日：毎週月曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：痙攣(筋肉のつばり)に対して、筋肉の緊張をやわらげる薬剤(ボツリヌス毒素)を注射して痙攣を軽減させる治療を行います。
	小児科発達 専門外来	診 療 日：毎週月曜日 13：00～15：00（初診のみ）、毎週火・木曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
	腰痛外来	診 療 日：毎週水曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。
肺 がん 検 診	セカンド オピニオン外来	診 療 日：（完全予約制）紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器内科・呼吸器外科・脳神経内科・小児科（筋ジス）の専門医（医長）が担当いたします。
	肺 がん 検 診	診 療 日：毎週月～金曜日 11：00～11：30（要予約） 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。 料金5,500円